

2013年産黄桃缶詰市況



ギリシャ

本年のギリシャピーチの生産は、例年通り7月中旬より開始していますが、4月に降雨量が多く受粉が上手くいかなかった事と6月上旬に産地中心に発生した、ひょう嵐の影響で、ギリシャ全土の今季収穫高は30万トンと、昨年対比約30%減(2012年:44万トン)の予想となっています。

極早生種の「リナ種」は、ひょう嵐の影響も幾分か少ない模様で、品質全般に関しては平均的と見られています。

しかしながら、ギリシャ黄桃の50%を占める中生種「アンドロス種」は、受粉時期の多雨に加え、ひょう嵐の影響を大きく受け、直近の予想では平年比40%以上の減産といわれ、過去10年で最低の収穫高になると見られ、品質の低下が懸念されます。

減産により原料価格が昨年対比約30%上昇、VENUS社からの製品価格は昨年より約15%アップで提示があり、加えて為替円安の影響で、製品価格は大幅上昇となります。



凍害の無い原料



凍害原料

中国

原料主産地の山東省、安徽省では黄桃を栽培する農家が増加し、作付面積が増えた事から収穫量の増加が期待されましたが、開花期の4月下旬に大雪に見舞われ生育が遅れた事により、中国全体で昨年比3~4割の減産といわれています。

今期の収穫・製造は7月上旬より開始し、原料価格は昨年より大幅アップでスタートしています。

詳細につきましては、次号弊社ニュースにてご報告いたします。